

# 公社造林のあり方検討について

環境・農水常任委員会資料  
平成30年(2018年)10月4日(木)  
琵琶湖環境部森林政策課

## 現状および課題

### 【公社林の役割】

- ①公益的役割
    - ・水源涵養
    - ・災害防止
    - ・生態系保全
    - ・温暖化防止
  - ②経済的・社会的役割
    - ・木材生産
    - ・山村活性化
    - ・雇用創出
- 等

### 【現状】

- ①公社林の現状
  - ・平成27年度より伐採事業を開始
  - ・平成35年度より伐採事業量が増加(旧びわ湖造林公社分の伐採を開始)
  - ⇒公社事業の大きな転換点
- ②公社林を取り巻く環境
  - ・気象災害の増加、琵琶湖保全再生法の制定等、森林に対する公益的機能の二一ズが増大
  - ・林業成長産業化への取組を推進
  - ・木材生産技術の進歩

### 【課題】

- ・伐採収益の目標達成に向けて、様々な課題がある。
- (①木材単価の下落、②造林木の成長不足、③獣害による材質低下、④労務費の上昇)
- ・分収造林契約の変更が、中期計画目標に達していないことにより、計画どおりの伐採ができない恐れ。
- ・シカによる植生被害の増加等による森林の公益的機能の低下

公社事業が転換点を迎えたことを踏まえ、公益的機能の発揮と木材生産による伐採収益の向上を両立させる公社林のあり方を検討する必要

## 公社造林あり方検討会

### 【方針】

県民の財産である公社林を健全な形で将来に引き継ぐための公社林のあり方を検討

### 【目的】

水源かん養機能等の公益的機能を持続的に発揮させ、かつ、採算性を向上させて伐採収益を上げるための保全活用方法の提示

### 【概要】

- ①期間:平成30年11月～平成31年8月
- ②委員:外部識者7名(委員は右記のとおり)
- ③検討方法:
  - ・現状分析(第1回～第2回)
  - ・課題抽出・検討(第3回～第6回)
  - ・意見のとりまとめ(第7回～第8回)

### 【主な検討内容】

- ①伐採方法
  - ・より伐採収益を上げるための伐採方法等の検討
- ②木材搬出方法
  - ・コスト削減等、効率的な木材搬出方法の検討
- ③木材販売方法
  - ・大口販売先の獲得等、収益向上に向けた販売方法の検討
- ④分収契約変更
  - ・契約者との変更交渉手法等の検討
- ⑤採算林の保全
  - ・公益的機能の持続的発揮に配慮した森林整備・伐採方法等の検討
- ⑥不採算林の保全
  - ・契約解除・返地後の森林の保全方法の検討

### 【スケジュール】

- [ H30.8 ] 公社から経営評価の報告  
↓  
関与条例に基づく指導・助言
- [ H30.11～H31.8 ] 公社造林あり方検討会の開催・意見のとりまとめ  
↓  
関与条例に基づく指導・助言
- [ H31.10 ] 検討会結果等を議会へ報告
- [ H32.4～ ] 第3期中期経営改善計画の策定  
・年度事業計画に指導内容を反映

### 【委員構成(案)】

氏名	役職名等
石川 知明	三重大学大学院教授
川元 麻衣	公認会計士
栗山 浩一	京都大学大学院教授
高橋 市衛	長浜市伊香森林組合 参事
檜崎 遠也	FOREST MEDIA WORKS 株式会社 代表取締役
根籬 徹也	(有)ネヌケン 代表取締役 (一社)滋賀県木造住宅協会 会長
山下 直子	森林総合研究所関西支所 森林生態研究グループ 主任研究員